様式第1（第15条関係）

会　　議　　録

会議の名称	第 22 回（令和 8 年度第 1 回） 和泉市立総合医療センター経営評価委員会
開催日時	令和 8 年 8 月 27 日(木) 午後 3 時 00 分～午後 4 時 45 分
開催場所	和泉市役所別館 3-1 会議室
出席者	【委員】 髙杉　豊委員長・吉岡　敏治・鹿島　洋一・露口六彦・木村佳弘 【和泉市立総合医療センター】 光冨総長・松下病院長・川口看護部長・隈﨑医療安全室長・大西事務責任者・玉垣総務課顧問・八巻総務課長・橋本総務課副主任 【事務局】 尾郷こども・健康部長・髙橋健康づくり推進室長・山本病院経営管理担当課長・奥田総括主幹・奥野総括主査
会議の議題	・令和 7 年度第 21 回（前回）の指摘事項及び回答 ・令和 7 年度　運営状況について（4月～3月） ・令和 7 年度　進行管理(PDCA)チェックシート兼経営評価シーについて（4月～3月） ・令和 7 年度　答申（案） ・令和 8 年度　諮問について
会議の要旨	審議内容のとおり
会議録の作成方法	□全文記録 ■要点記録
記録内容の確認方法	■会議の議長の確認を得ている □出席した構成員全員の確認を得ている □その他（　　）
その他の必要事項（会議の公開・非公開、傍聴人数等）	公開　傍聴者：無

審 議 内 容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）	
司会	出席者紹介の後審議に入る
	令和 7 年度第 21 回（前回）の指摘事項及び回答について説明
髙杉委員長	只今の説明について、何かご質問あればお伺いしたいと思います。（質問なし）
髙杉委員長	前回の指摘を踏まえ、資料の表記が改善されており、比較が分かりやすくなっていることを確認した。
	令和 7 年度の運営状況について説明
木村委員	損益計算書の経費に増築棟の費用が含まれているが、この表記方法は医療業界では一般的なのか。民間企業では特別なものとして経費以外に計上することが多い。
センター	徳洲会本部の顧問税理士の指示のもと、処理をしている。
鹿島委員	自院の顧問税理士に確認したところ、医業費用に含めることには違和感があるとのことでした。露口委員のご意見はいかがか。
露口委員	顧問税理士の判断なのでよいとは思うが、私も違和感がある。また、評価点についても「3」と評価している点は疑問がある。
髙杉委員長	損益計算書だけを見ると、大きな赤字を出しているように見える。本来は、医療事業に関する決算状況が知りたいところである。誤解を招かないような表記にするべき。
センター	記載は決算状況を記載しております。単純に 4 月から 3 月までの損益を累積すると、先ほど説明したように約 15 億円の黒字となりますが、前回と比較ができるように、同じ形式で資料を作成しております。
鹿島委員	大阪府の公立病院の収支資料として開示される場合、誤解が生じないか疑問が残る。
髙杉委員長	誤解が生じないように、注釈をいれてはどうか。
露口委員	せっかく健全な経営をしているのだから評価されるべきであり、誤解を生まずに済むよう工夫が必要だ。
吉岡委員	寄付金の内訳は何か。
センター	全て建築費用である。
吉岡委員	救急搬送において市内民間病院が減っている要因は何か。
センター	府中病院が救急医療を中止し、市外の泉大津急性期メディカルセンターが開業した影響が大きい。その他では、近畿大学病院が泉北で開業した影響も考えられる。救急については、引き続き、力を入れていきたいと考えている。
木村委員	入院診療単価や外来診療単価は今後も伸びていくのか。
センター	入院については、病床数が 307 と決まっているので、大きく伸びることはないが、外来は伸びる可能性があると考えている。
木村委員	医業費用明細において、委託費や経費をかなり絞り込んでいるが、材料費が上がっているため、入院の単価上昇に伴う収益がそれほど上がっていかないのであれば、今の黒字を恒常的に維持できるものではなく、しっかりとマネジメントしていかなければならないと考える。
センター	単価を上げて効率を追求するのも一つの考えとしてはあるが、利益率が低い小児科な

	どもしっかりやっていく必要がある。血液内科、腫瘍内科などの利益率が高い診療科と、バランスを取っていく必要がある。
露口委員	アクシンデントの死亡例は訴訟にはつながってないか。
センター	訴訟にはなっていませんが、医療事故調査支援センターに報告した案件となっています。
	経営強化プラン進行管理(PDCA)チェックシートについて説明
鹿島委員	安定した病院経営については、先ほど議論があったが、「3」ではなく「5」でよいのではないか。また、高度・専門医療について、放射線治療や化学療法の件数が減っている原因は何か。
センター	放射線治療は、新規の機器が泉大津急性期メディカルセンターに導入され、ハード・ソフトウェア面で劣っている。患者数については、年間 200 件ががん拠点病院の条件となっており、条件は満たすと思うが、全体として減っているのは問題だと感じている。症例では、肺がんの件数が減っている。
鹿島委員	承知した。ダビンチの手術件数もかなりこなしているので、「5」でもいいと考える。 また、高度・専門治療の得意分野については、地域の中の病院で、対応するところがあればよいのではないという印象である。
髙杉委員長	地域の中での対応で考えると、救急については、近くに泉大津急性期メディカルセンターができて、和泉市立総合医療センターの件数が減っているが、地域全体で見れば市民が困っているわけではない。こういった点をどのように評価するか、難しい課題である。
センター	救急外来については、病院としては市内の患者は市立病院で受け入れるというのが和泉市からの要望もあるし、病床の問題はあるが、頑張っていきたいと考えている。
髙杉委員長	医療の標準化・質の項目であるクリニカルパスについてだが、高度・専門医療を実施しているので、クリニカルパスを見ると評価は「3」となっているが、「4」が妥当だと考える。委員の皆さんのご意見はどうか。
吉岡委員	外部の人が見た場合、質が低いと誤解される恐れがあり、「4」でも妥当である。
センター	クリニカルパスの実施率だけで評価している形になっている。例えば 5 年生存率などを入れるなどして、客観的に評価していくような形も考えられる。
木村委員	質の向上については、クリニカルパス一つで評価するのは、健全でないという印象を持っている。また機会があれば評価項目を検討した方が良いという印象である。
髙杉委員長	今回は各委員の意見を受け、評価点を「4」とする。しかしながら医療の質については、次回の経営評価プランを立てる際には、しっかりと検討する必要がある。次に、損益計算書に寄贈分の経費を含めている点について、収支を客観的に評価することが難しい点について、どうするか考えたい。今回増築棟も建設し、その費用を除けば評価は「5」が適当と考えるが、それについて意見はあるか。
鹿島委員	病院経営は安定しているので評価としては問題ないと考える。他の公立病院に赤字が多いことを考えると、収益が良いので、「3」という評価はおかしい。「5」が妥当である。
髙杉委員長	問題がなければ、「5」と評価する。また、資料や答申の中で、誤解がないように記述す

	るように検討する。
鹿島委員	医業費用明細で保険料が減少している理由は何か。
センター	病院負担から、本部費用となっています。
鹿島委員	保険の内容は何か。
センター	医師賠償責任保険や火災保険となっています。
鹿島委員	承知した。
	令和 7 年度 答申(案)について説明
髙杉委員長	ただいまの説明について、何かご質問があればお伺いしたいと思います。
露口委員	(3)収支状況について、増築棟建設費用に伴う経費に関する文言を整理して修正することをお願いする。
木村委員	全体的に表現を統一した方がよい。
髙杉委員長	ご指摘のとおり、(3)収支状況については整理して記載するように検討する。
髙杉委員長	病院が努力して、良好な経営状態にあるので、徳洲会本部の考え方もあるが、寄付金の見せ方について工夫をしていただいた方がよいと考える。
露口委員	43 億円を除いた収支を出し、利益を出していることを強調した方がよい。決算書を作り替えろとは言わないが、表現を変えるべきだ。
木村委員	診療の待ち時間について、予約ありは全体的には少ない。予約なしは長くなっているので、原因については、理由を把握しておいた方がよいのではないか。
センター	膠原病などは、地域でも医療機関が少なく、患者が集まる傾向にある。待ち時間は変わらないが、今回増築棟で、待合空間ができて、快適に過ごせるようにはなっている。
髙杉委員長	損益計算書については、外部へは、この決算の数字が公表される。現時点で数字を変更することは困難だが、評価委員会の意見として、市長に答申を出す際は、記載の方法を修正して答申する。
	議題終了